

(証券コード 東証プライム：5957)

2023年12月期 第2四半期 決算説明会

NITTOSEIKO

Taking new steps forward together



2023年3月
健康経営優良法人
3年連続選定

2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

1. 2023年12月期 第2四半期 業績概要
2. 中期経営計画に基づく取組みと報告
3. 2023年12月期 業績予想
4. 経営の考え方



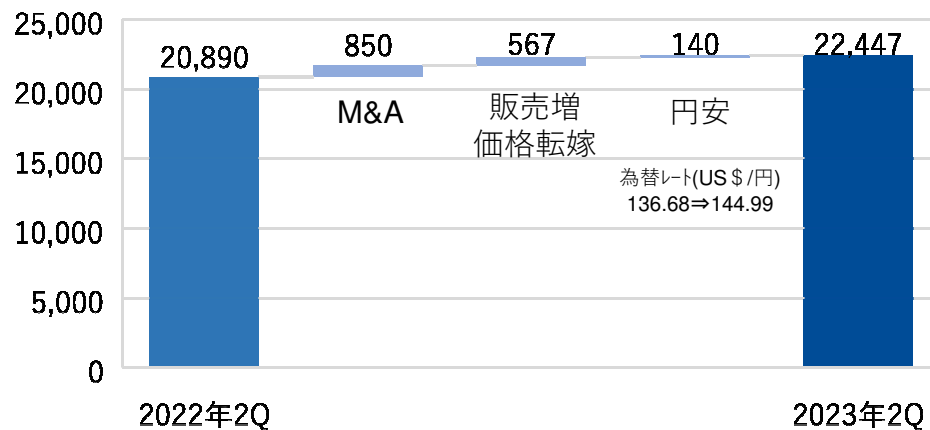
■ 説明者
代表取締役社長

あらが まこと
荒賀 誠

1. 2023年12月期 第2四半期 業績概要

単位：百万円／％	22年12月期 第2四半期		23年12月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	20,890	100.0	22,447	100.0	1,557	7.5
売上総利益	4,764	22.8	5,117	22.8	353	7.4
販売管理費	3,732	17.9	3,818	17.0	86	2.3
営業利益	1,032	4.9	1,298	5.8	266	25.9
経常利益	1,270	6.1	1,476	6.6	205	16.2
税金等調整前当期純利益	1,612	7.7	1,494	6.7	△117	△7.3
親会社株主に帰属する当期純利益	996	4.8	833	3.7	△162	△16.3
一株当たり当期純利益（円）	26.97		22.57			

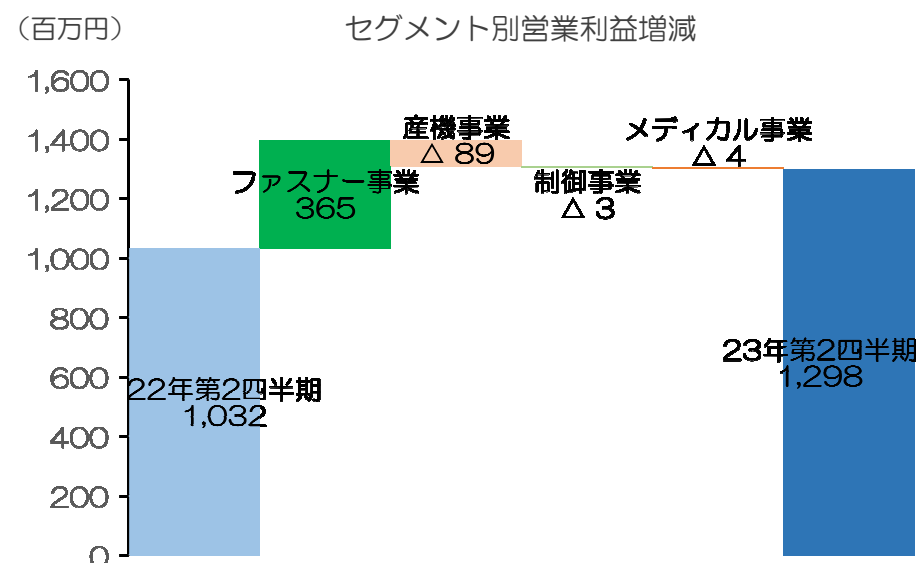
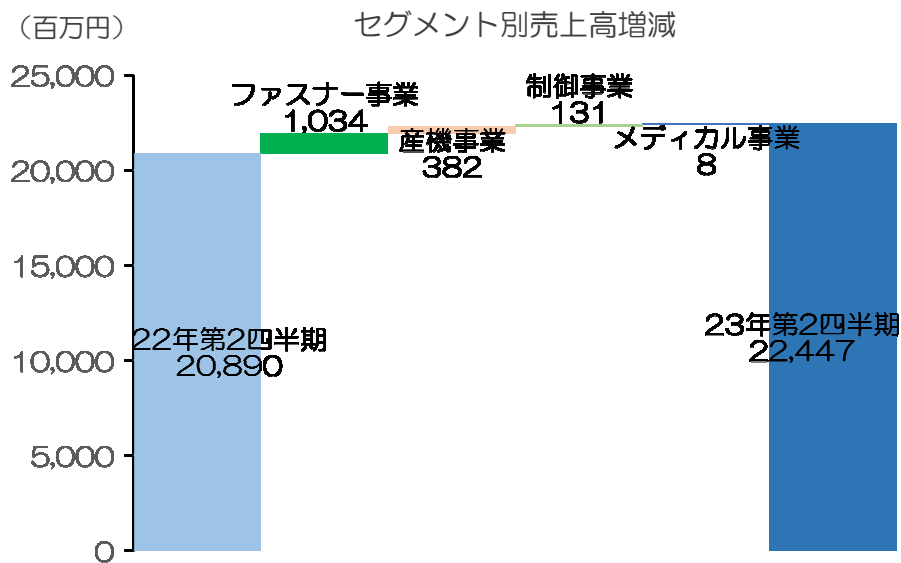
増収の要因



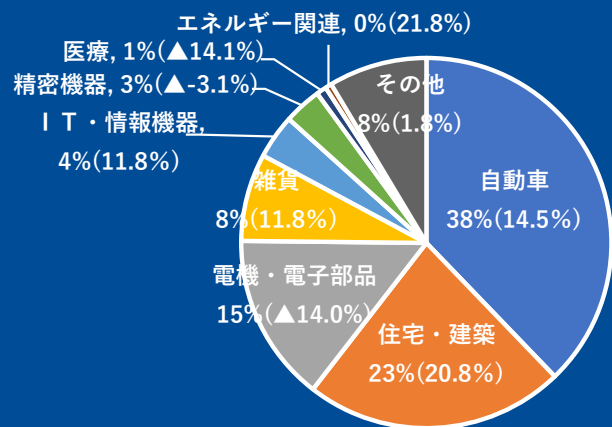
資源・原材料高騰による部品価格の値上げなどがあったものの、販売価格の改定や、円安、社内の生産効率向上、コストダウンなどの経費削減により利益増加。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／％		22年12月期 第2四半期	23年12月期 第2四半期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	15,226	16,260	1,034	6.8
	営業利益	434	800	365	84.0
	利益率	2.9	4.9		
産機事業	売上高	3,070	3,453	382	12.5
	営業利益	571	481	△89	△15.7
	利益率	18.6	13.9		
制御事業	売上高	2,588	2,720	131	5.1
	営業利益	73	69	△3	△5.4
	利益率	2.9	2.6		
メディカル事業	売上高	4	13	8	182.9
	営業利益	△47	△52	△4	—
	利益率	—	—		



単位：百万円／%	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	15,226	16,260	1,034	6.8
自動車	5,368	6,147	778	14.5
住宅・建築	3,055	3,691	636	20.8
電機・電子部品	2,775	2,387	△388	△14.0
雑貨	1,112	1,243	131	11.8
IT・情報機器	755	627	△127	△16.9
精密機器	552	535	△17	△3.1
医療	166	142	△23	△14.1
エネルギー関連	70	90	19	28.1
その他	1,373	1,398	25	1.8
営業利益	434	800	365	84.0



カッコ内は
前年同期比

◆自動車

- ・資材不足による顧客の生産調整などがあったものの、EV・ECU・電池・センサ・電動化(二次電池+モータ)向け「ギザタイト」「アルミタイト」「CPグリップ」「座金組込みねじ」「精密プレス品」や、車両の軽量化・薄板化に貢献する新製品「JOISTUD(ジョイスタッド)」のシリーズ化により需要が堅調に推移。

◆住宅・建築

- ・建築向け締結部品「ドリルねじ」「ナット」などの需要が好調に推移。また、新製品「シェアクロス」の市場投入で今後の伸長に期待。

◆電機・電子部品

- ・資材不足の影響が大きく、低調に推移。

◆雑貨

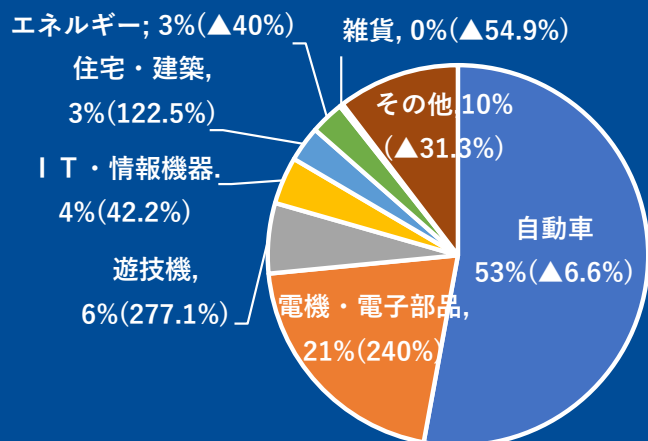
- ・国内ではコロナ禍での巣ごもり需要の衣服感はあるものの、海外(中国、台湾)の売上増により堅調に推移。

◆IT・情報機器

- ・前期好調であった5G通信関係の反動を受けて海外含め低調。

単位：百万円／%	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	3,070	3,453	382	12.5
自動車	1,954	1,826	△128	△6.6
電機・電子部品	209	711	502	240.0
遊技機	55	206	151	277.1
IT・情報機器	98	139	41	42.2
住宅・建築	47	104	57	122.5
エネルギー関連	165	99	△66	△40.0
雑貨	23	10	△12	△54.9
その他	519	358	△162	△31.3
営業利益	571	481	△89	△15.7

- ◆自動車
 - ・活況なCASE・EV関連設備、新車種組み入れに係る設備改造、人手不足解消の自動化設備の引き合いは多いものの、原材料価格高騰による顧客設備投資意欲の低下などもあり、ねじ締め装置の需要は低調に推移。
- ◆電機・電子部品
 - ・基板メッキ装置の大型案件獲得など、前年同期比大幅増。
- ◆遊技機
 - ・新機種生産に伴う「組立ライン」ならびに「ねじロボ」など、大型受注を受けて売上高は大幅増。
- ◆IT・情報機器
 - ・スマホ関連の特需により好調に推移。
- ◆住宅・建築
 - ・省人化に向けた設備の需要が好調に推移。
- ◆エネルギー
 - ・ガスメータ関連の設備需要が低調に推移。



カッコ内は
前年同期比

単位：百万円／%	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	2,588	2,720	131	5.1
化学・薬品	592	633	40	6.8
エネルギー関連	443	439	△4	△0.9
住宅・建築	288	256	△31	△11.0
電機・電子部品	151	171	19	13.1
造船	138	164	25	18.7
自動車	190	144	△46	△24.4
医療	42	67	25	59.5
その他	744	846	102	13.8
営業利益	73	69	△3	△5.4

◆化学・薬品

- 分析装置を中心とし、各種流量計などの需要も堅調に推移。

◆エネルギー関連

- 分析装置の需要は横ばい。

◆住宅・建築

- 地盤調査機「ジオカルテⅣ」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く状況もあり低調に推移。

◆電機・電子部品

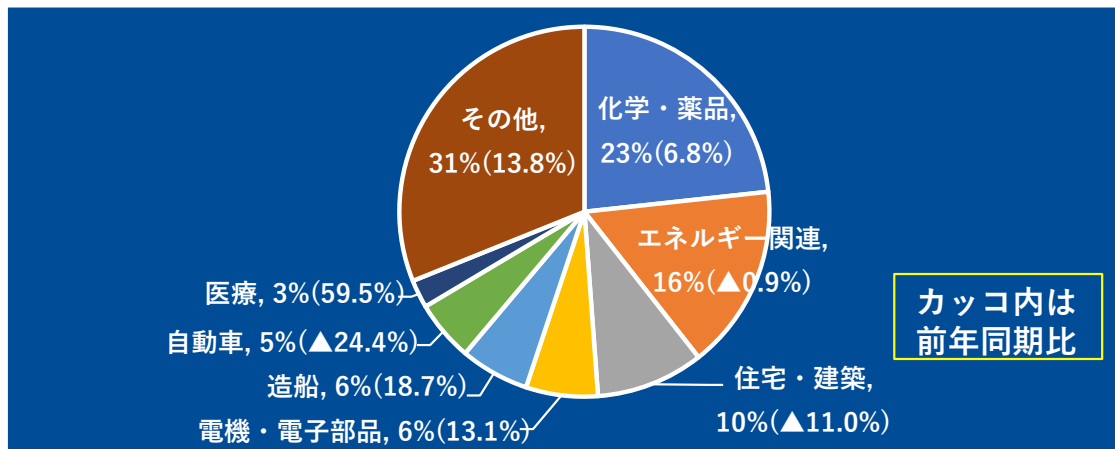
- 分析計測機器の需要が堅調に推移。

◆造船

- CO₂排出規制に係る国際制度への移行により、流量計の改造や質量流量計への置き換えなどの需要が国内外ともに好調に推移。

◆自動車

- 分析機器の需要はあるものの、部品不足の影響を受け大幅減。部品検査装置「ミストルシリーズ」は省人化・自動化の流れもあり引き合いは活発。ミストルについては、難解な検査設定を容易にするAI機能の開発を進め、今後の巻き返しを図る。

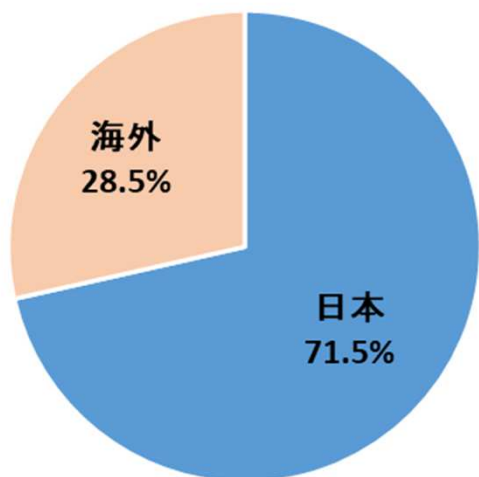


単位：百万円／％	22年 第2四半期	23年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	4	13	8	182.9
医療	4	13	8	182.9
その他	—	—	—	—
営業利益	△47	△52	△4	—

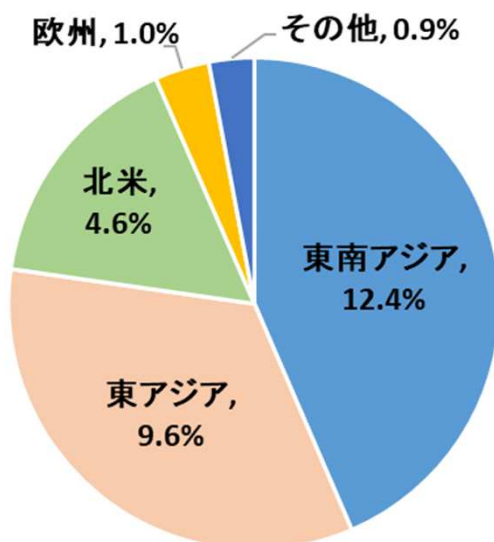
◆医療

- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、これに係る日本国特許を取得し、海外特許出願においても各国で審査に係属中。
今回の特許取得を弾みに、まずは年内の非臨床試験完了を目指し、一貫製造設備の整備、臨床試験に向けた試料の製作、性能試験など、上市に向けた取組みに注力する。
- 当社既存技術を活かした新たなプロジェクトを始動。医療機器の拡充を図る。

連結売上の約**28.5%**が海外（2022年度2Qは30.6%）



売上高国内外比率
(2023_1Q-2Q)



売上高海外エリア別
(2023_1Q-2Q)

対象国(地区)	22.2Q比	コメント
中国	84%	ゲーム機関連のねじ製品需要が大幅増と牽引するも、自動車、電機・電子部品、IT・情報機器関連のねじ製品の需要ならびに自動車関連の設備投資が低調に推移。
韓国	147%	生産設備関連の需要が好調に推移。
台湾	97%	ゲーム機関連のねじ製品需要と自動車関連の設備投資が牽引するも、電機・電子部品、自動車関連のねじ製品の需要が低調に推移し横ばい。
タイ	102%	ねじ製品、生産設備の需要は、自動車、電機・電子部品関連をはじめ各業界ともに横ばい。
マレーシア	97%	主力である電機・電子部品のねじ製品の需要が低調であったものの、自動車、IT・精密機器、ゲーム機関連のねじ製品が堅調に推移し横ばい。
インドネシア	110%	自動車、IT・精密機器関連のねじ製品の需要が堅調に推移。
米国	111%	自動車、電気電子関連の生産設備需要は低調に推移するも、昨年4月に子会社化したピニングが売上増に貢献。
欧州	90%	日東精工アナリテックの分析装置などの需要が低調に推移。
その他	122%	主にインド向け分析装置の需要が前年同期比で好調に推移。

2023年12月期 第2四半期 (連結) 貸借対照表

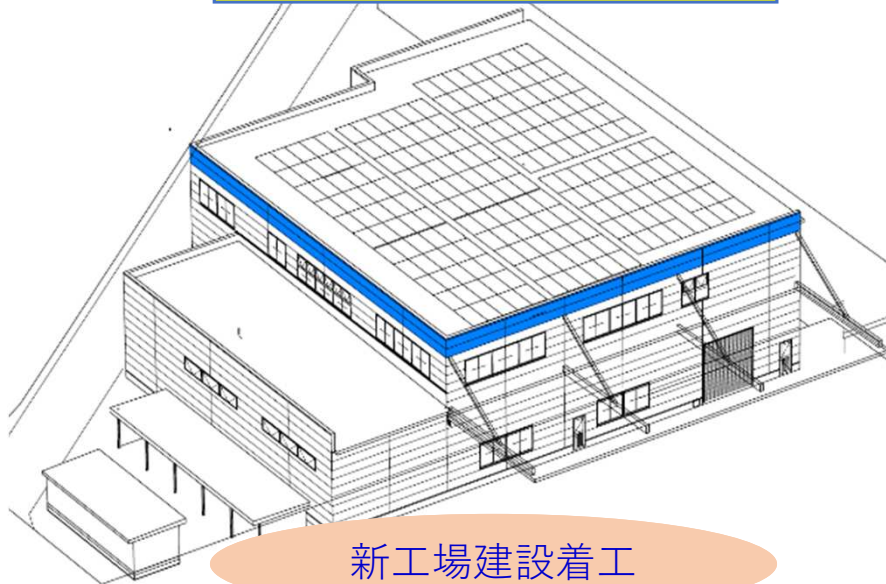
単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期 第2四半期		前年期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	34,342	64.3	34,170	64.0	△172	△0.5
現金及び預金	9,098	17.0	9,618	18.0	519	5.7
受取手形・電子記録債権/売掛金	13,986	26.2	12,815	24.0	△1,171	△8.4
棚卸資産	10,081	18.9	10,917	20.5	835	8.3
固定資産合計	19,065	35.7	19,199	36.0	134	0.7
有形固定資産	14,085	26.4	14,211	26.6	125	0.9
無形固定資産	1,146	2.1	1,048	2.0	△98	△8.6
投資その他の資産	3,833	7.2	3,939	7.4	106	2.8
資産合計	53,408	100.0	53,370	100.0	△37	△0.1
負債の部						
流動負債合計	14,601	27.3	13,631	25.6	△969	△6.6
支払手形・電子記録債務/買掛金	9,015	16.9	8,962	16.8	△52	△0.6
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,436	5.6	1,851	3.5	△584	△24.0
固定負債合計	4,304	8.1	4,021	7.5	△283	△6.6
負債合計	18,906	35.4	17,652	33.1	△1,253	△6.6
純資産の部						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.6	—	—
資本・利益剰余金	28,208	52.8	28,838	54.0	629	2.2
自己株式	△1,246	△2.3	△1,341	△2.5	△94	—
純資産合計	34,501	64.6	35,717	66.9	1,215	3.5

単位: 百万円	22年12月期 第2四半期	23年12月期 第2四半期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	300	2,371	2,071	690.0
投資活動によるCF ※②	△1,517	△539	978	—
(フリーCF) ※①+②	△1,217	1,832	3,049	—
財務活動によるCF	△661	△1,105	△444	—
現金及び現金同等物の増減額	△1,659	556	2,215	—
現金及び現金同等物の期首残高	10,435	8,305	△2,129	△20.4
現金及び現金同等物の期末残高	8,776	8,862	85	1.0

単位：百万円	22年12月期	23年12月期 第2四半期	23年12月期 (予想)
	金額	金額	金額
設備投資	1,122	559	1,235
減価償却費	1,421	757	1,480
研究開発費	764	376	800

主な設備投資使途（2023年度）

生産性・品質の向上・
CO₂排出量削減



新工場建設着工

ファスナー製品の生産性・品質の向上・製造過程のCO₂排出量削減を目的に新工場の建設に着工。完成は2023年秋を予定。

加工品質向上に向けた
設備更新



縦型マシニングセンターの導入

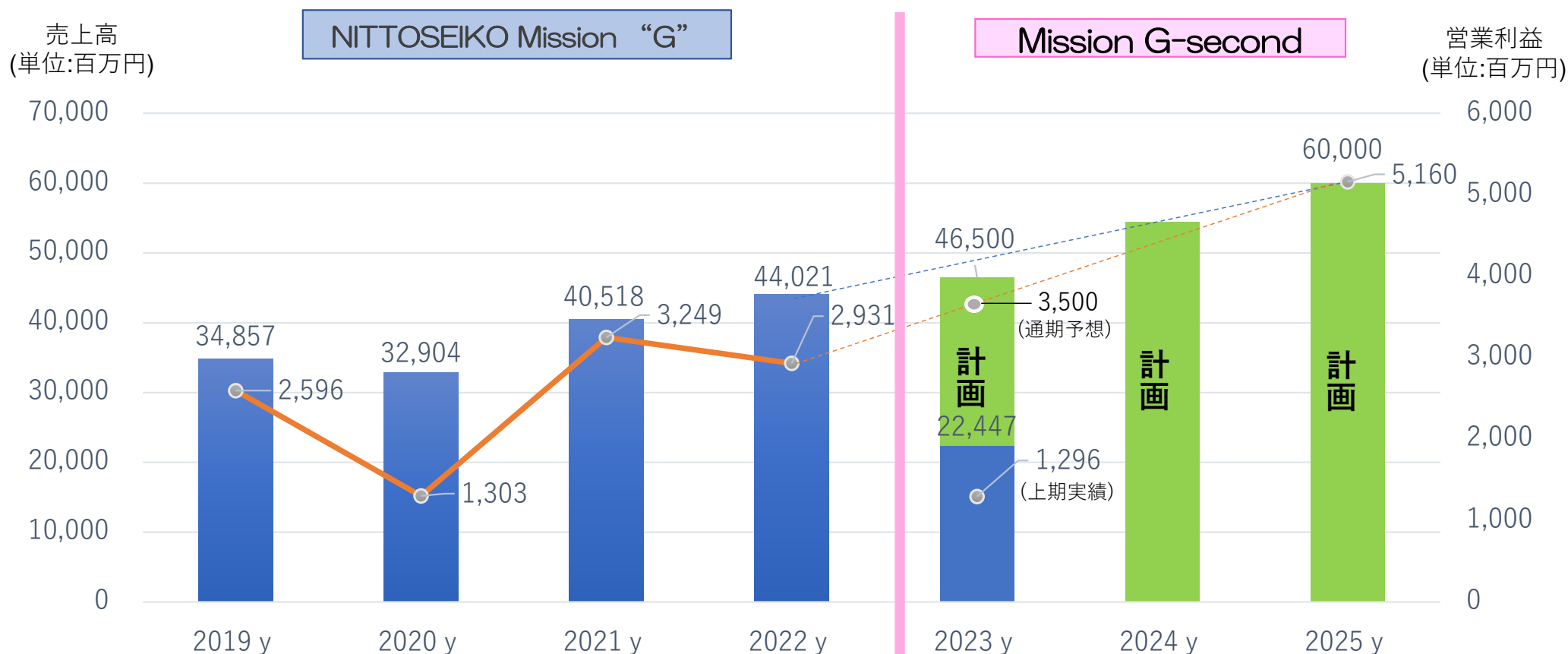
2. 中期経営計画に基づく取組みと報告

新中期経営計画【目標数値】

世界中で認められ、求められる「モノづくりソリューショングループ」を目指す

最終年度（2025年12月期）目標数値（連結）

売上高	60,000百万円
営業利益	5,160百万円
ROIC（投資資本利益率）	8%以上
ROE（株主資本利益率）	9%以上



日東精工アナリテック ヨーロッパを設立 ドイツ・デュッセルドルフを拠点とし、充実した 販売・サービスを強化

欧州（ドイツ）
初進出！

分析機器・計測機器の
輸入販売、技術サービ
スおよびアプリケーシ
ョン開発

制御事業以外も含めた
グループの更なる事業
展開を視野



世界初！ 医療用生体内溶解性 高純度マグネシウム



日本国特許取得
(2023年6月)

生分解性医療器具
特許番号：特許第7301490号

骨折治療用インプラント



特徴

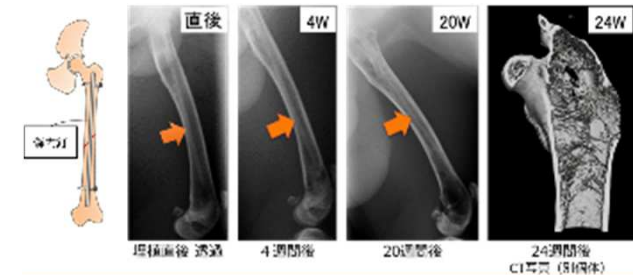
- 99.95%以上の高純度マグネシウムで人間の必須元素で高い安全性
- 生体内で一定期間経過後に溶解をはじめ、その後ゆるやかに長い時間をかけて完全溶解

進捗状況



開発の状況

- 大学病院様で非臨床試験を開始
- 各学会大会での研究発表
2022.10 共同研究先 京都府立医科大学 岡佳伸先生
2022.11 メディカル新規事業部 所属員
- 生物学的安全性試験・非臨床試験を年内完了予定で進行中
- 現在、これら試験に適合するインプラントの選定中
- QMS、生命倫理、情報公開などシステム整備



量産体制の構築

- 量産用の設備投資
- 品質、性能の安定性確認

有機溶剤リサイクル回収装置の開発

カーボン・ニュートラル社会の実現に向けた事業化

本年8月11日
イーセップ社と
業務提携を開始

【特徴】

- ・リサイクル回収量を向上
- ・廃液割合低減により従来のリサイクル工程(燃焼・蒸留工程)が不要になりエネルギー消費減



★エネルギーコストの削減

★リサイクル回収時のCO₂削減



NITTOSEIKO

- ・プラント製作技術
- ・流体制御技術
- ・防爆技術



eSep

- ・膜分離技術
- ・フィルター製造技術



【有機溶剤リサイクル装置】
※イメージ



カーボン
オフ
セット



CO₂
削減



カーボン
ニュートラル



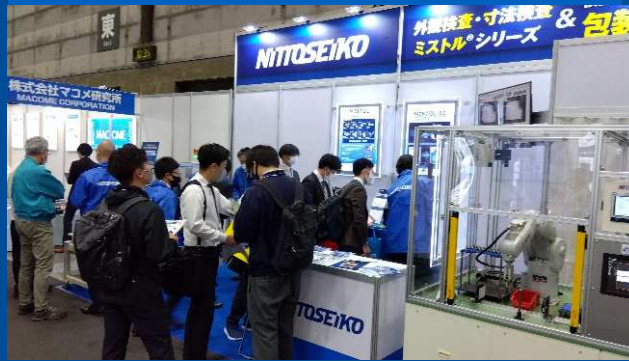
脱
炭素



会 期 2023/3/21~23
 会 場 Messe Stuttgart(ドイツ)
 来場者 約11,000名
 出展社 約1,000社

ねじ製品&ねじ
 締めロボットを
 展示

欧州の自動車、電機・電子メーカ
 を重点にPR。



会 期 2023/4/12~14
 会 場 ポートメッセなごや
 来場者 27,500名
 出展社 約540社

部品検査装置
 「ミストル」と
 基盤検査機を展示

中部地区を中心とする自動車
 関連サプライヤのご来場多数。
 受注に向けた活動注力中。

COLLABORATE JAPAN UR協働ロボットフェア 2023



会 期 2023/7/26~27
 会 場 ウィンクあいち
 来場者 969名
 出展社 19社

ねじ締め機
 「PD400UR」
 を展示

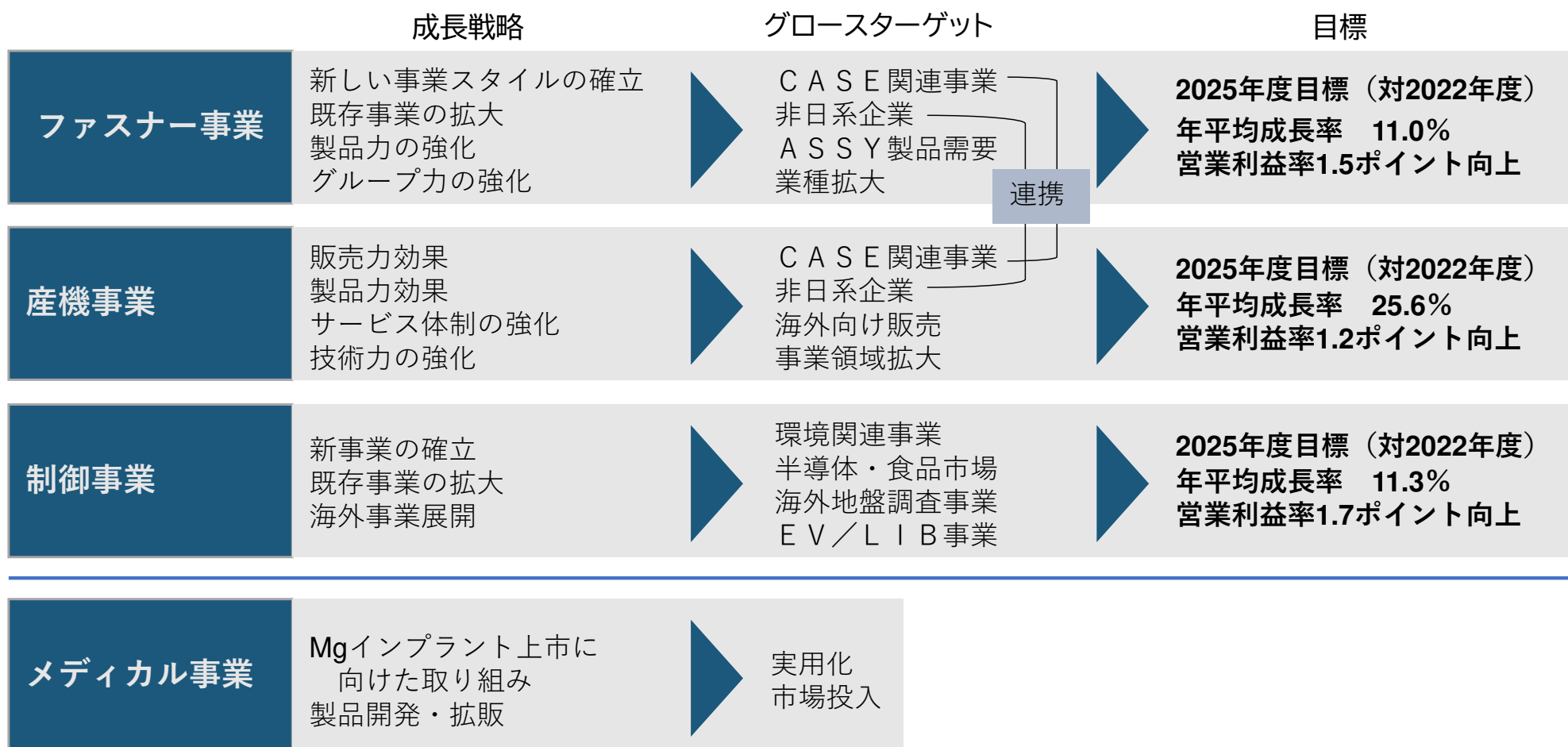
UR社プライベート展示会。
 中部地区ユーザのご来場多数。
 新規顧客引き合いもあり。

GROWTH#1 事業拡大戦略

- ▶ コア・コンピタンスを活かした事業別成長戦略
- ▶ お客さま目線のソリューション活動
- ▶ 事業拡大、経営効率のためのグループ最適化

2022年度実績 (百万円)		2025年度目標 (百万円)	
売上高	44,021	売上高	60,000
営業利益	2,931	営業利益	5,160

各セグメントの強みを活かした成長戦略を実践



GROWTH#1 事業拡大戦略

2022年度実績 (百万円)		2023年度見込み (百万円)			前年比	2025年度目標 (百万円)		進捗度
売上高	44,021	売上高	46,500	5.6%	売上高	60,000	22.5%	
営業利益	2,931	営業利益	3,500	19.4%	営業利益	5,160	32.1%	

ファスナー事業

2023年度2Q実績 (対前年同期)
成長率 6.8%
営業利益率2.1ポイント向上

2025年度目標 (対2022年度)
年平均成長率 11.0%
営業利益率1.5ポイント向上

- M&Aによる事業拡大
- 自動車、住宅・建築分野で需要確保
- 価格転嫁やコスト削減による収益向上

産機事業

2023年度2Q実績 (対前年同期)
成長率 12.5%
営業利益率4.7ポイント減少

2025年度目標 (対2022年度)
年平均成長率 25.6%
営業利益率1.2ポイント向上

- 特需などにより売上高向上
- 主力の自動車は設備投資が低調
- 材料高騰や価格競争により収益減少

制御事業

2023年度2Q実績 (対前年同期)
成長率 5.1%
営業利益率0.3ポイント減少

2025年度目標 (対2022年度)
年平均成長率 11.3%
営業利益率1.7ポイント向上

- ヨーロッパ拠点設置により受注が向上
- 建築分野の設備投資が低調
- 価格転嫁により1Qからは収益改善

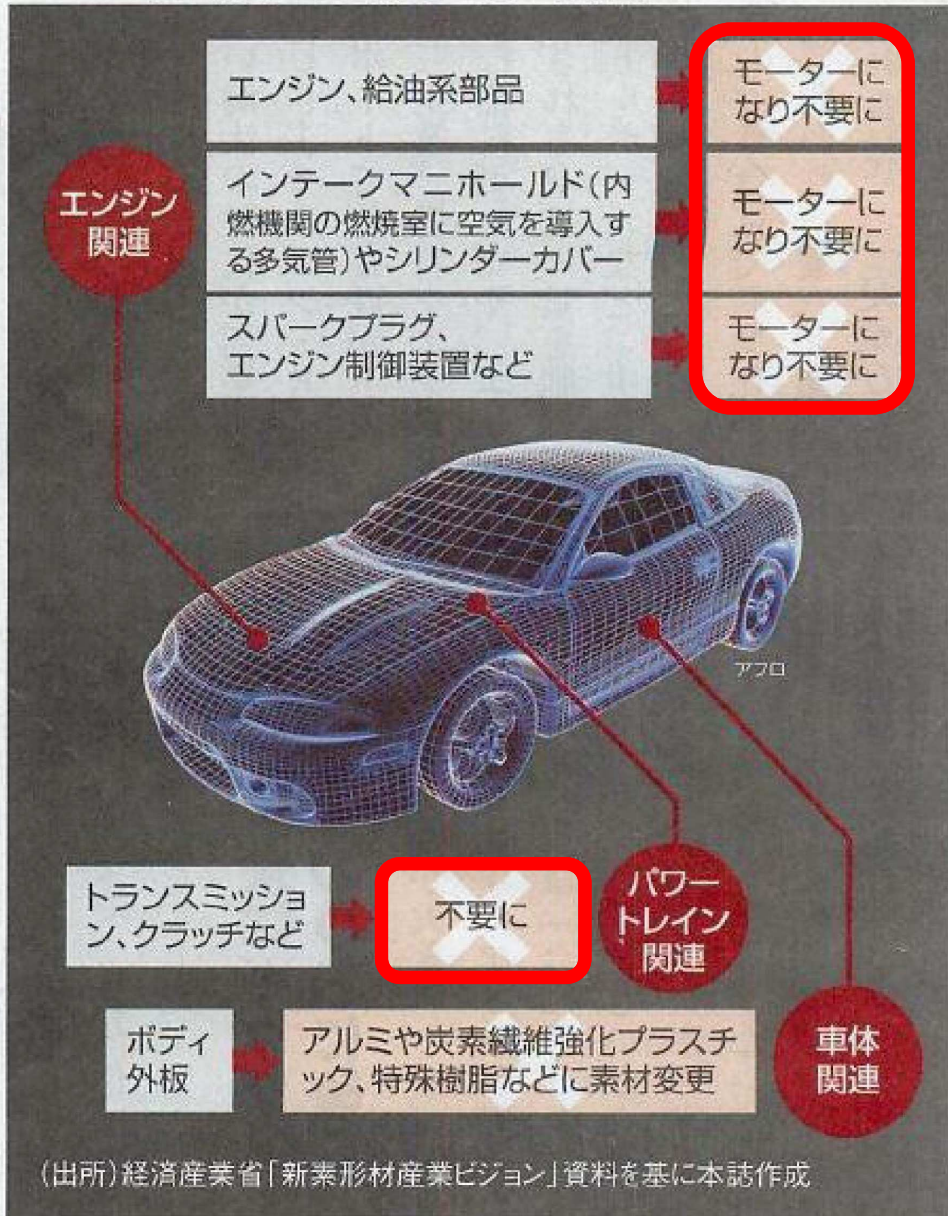
メディカル事業

Mgインプラント上市に向けた取り組み
製品開発・拡販

実用化
市場投入

- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」に係る日本国特許取得
- 臨床試験、実用化に向けて準備中

■ エンジン部品やパワートレインが不要に —EV化で不要になる主なガソリン車部品—



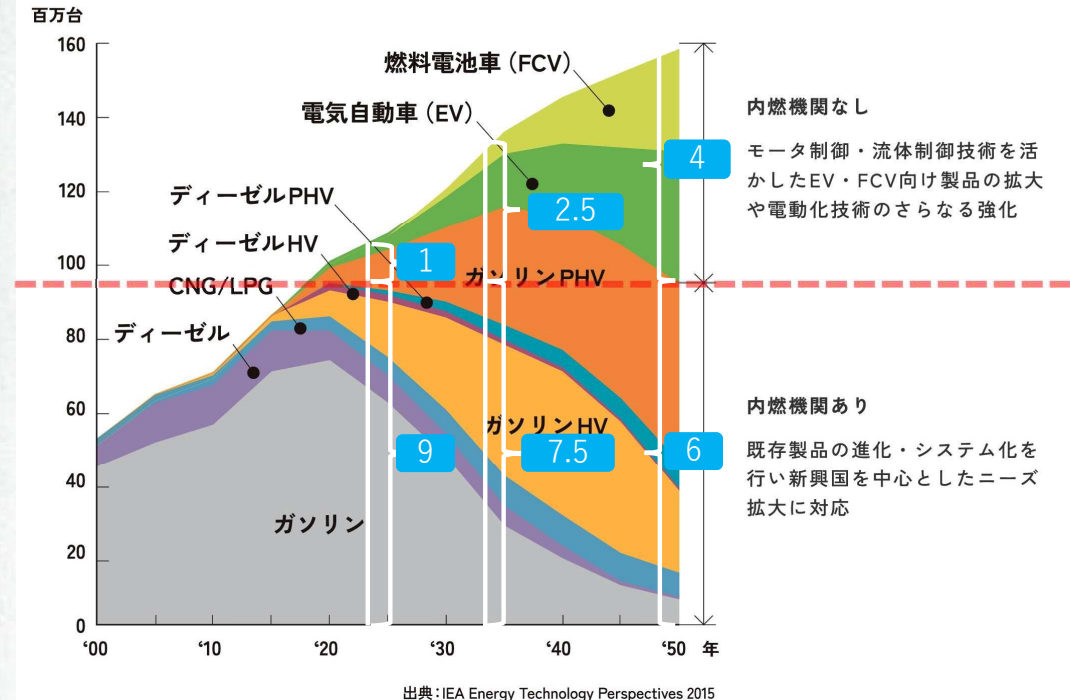
内燃機関搭載車： 内燃機関非搭載車の比率
2023年 9：1 ⇒ 2033年 7.5：2.5 ⇒ 2050年 6：4

- 総数は2050年まで右肩上がり
- 内燃機関搭載車(ガソリン車)は、2035年まで増加し、以降は減少。



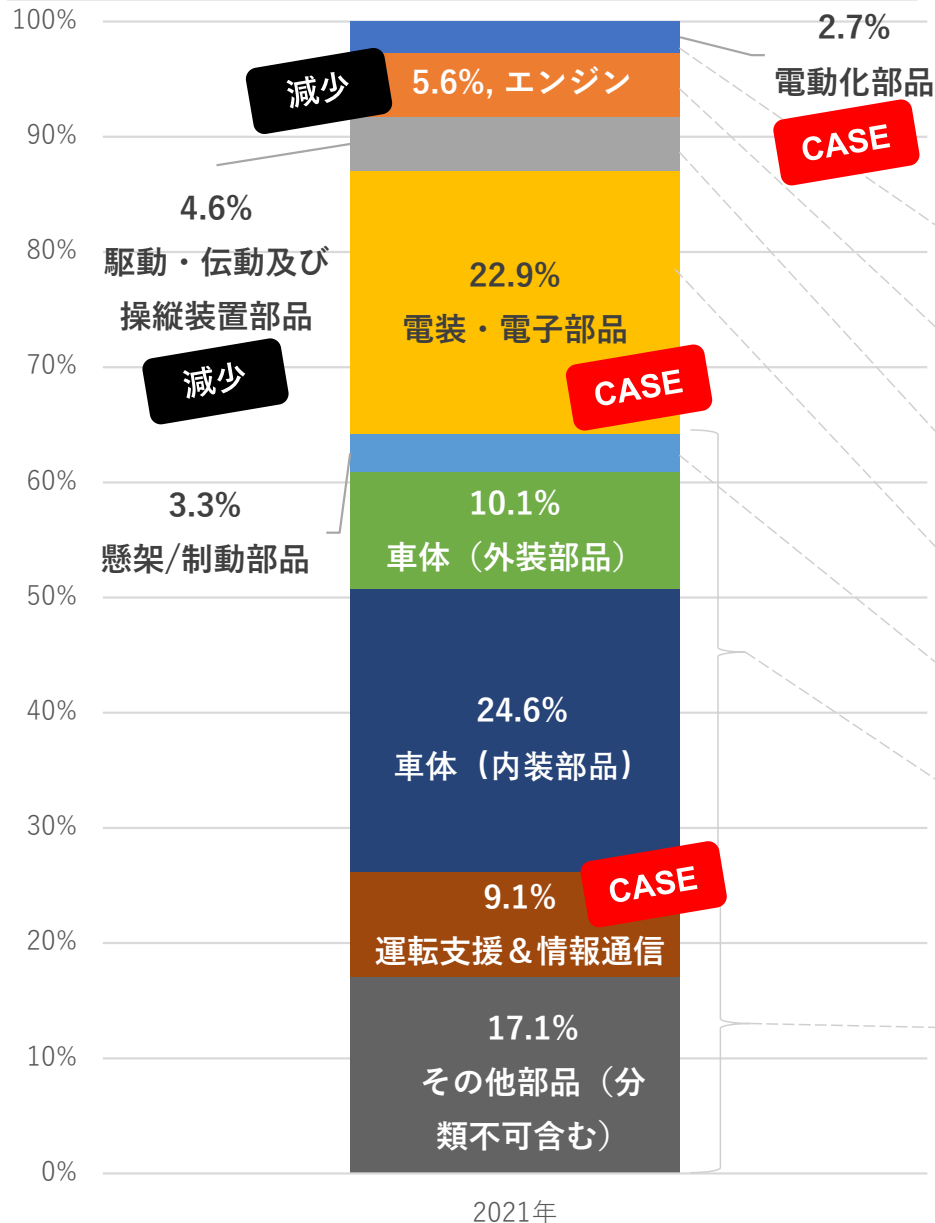
- EVシフトを急ぐものではなく、既存顧客での安定売上也視野。
- 新興国におけるEV車・FCV車の普及を視野に海外比率を高める事業活動を重視。

世界のパワートレイン別の新車販売将来予測



CASE関連事業の取組み背景②

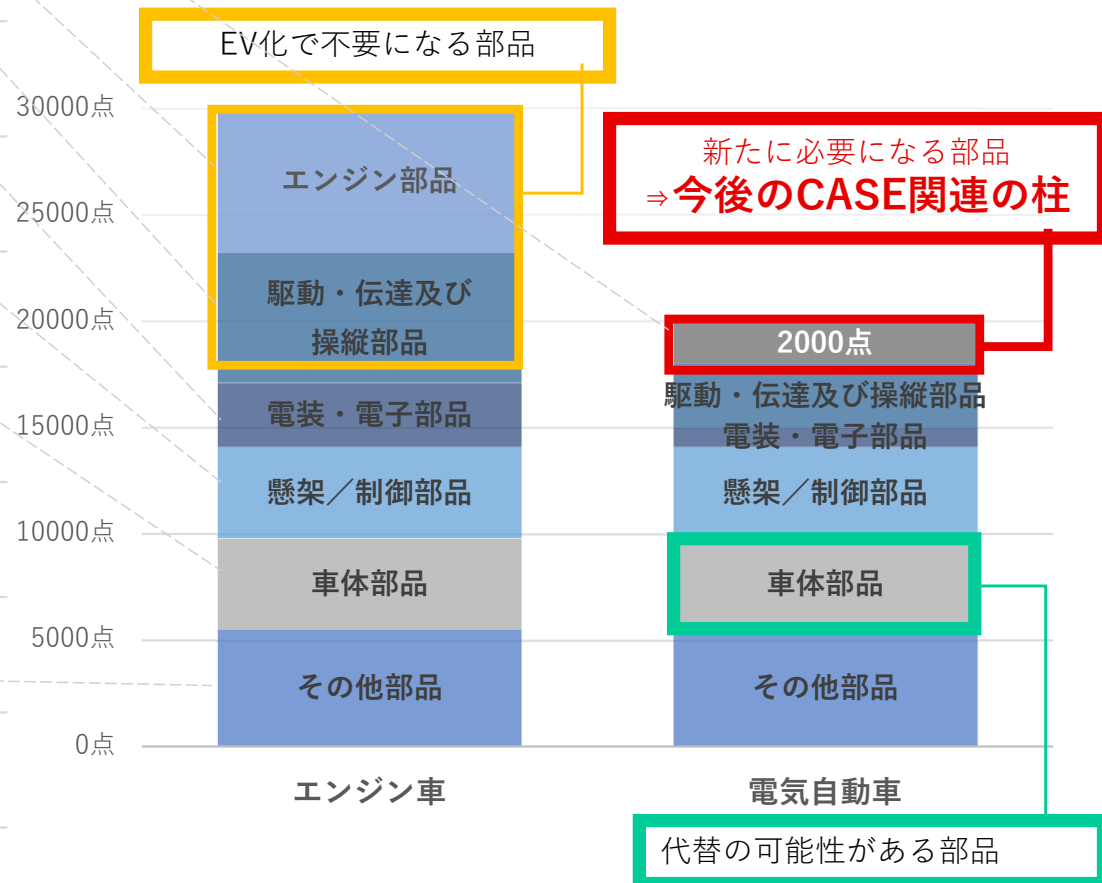
自動車/使用箇所大分類ごとの割合
(ファスナー事業の売上)



電子制御化・電動化の影響を受ける部品例
(2020年代の半自動車<レベル3>のEVを想定)

【部品点数】 30,000点 ⇒ 18,000点 ⇒ 20,000点

- 比率の高い「電装・電子部品」の採用アイテムは増加傾向 (CPグリップなど)
- CASEの柱のひとつ「二次電池」で新たなアイテムを発掘 (AKROSEなど)



グロース ターゲット

- CASE 関連事業・・・主力である自動車業界の成長事業と関わり続ける
- 非日系企業・・・事業拡大にはグローバルな販売展開が不可欠
- ASSY 製品需要・・・当社のグループの技術を活かした付加価値の高い製品が必要
- 業種拡大・・・安定事業の確立するために幅広い業種向けへの対応が必要

CASE 関連事業

CASE 関連売上 **2,954** 百万円

売上高比率目標 15.0% ⇒ 実績 **18.3%**

CASE 関連の部品締結で発生する顧客の課題を当社の技術力で製品化し解決に導く

受注残前期比 **705** 百万円増加 (22.5%増)

JOISTUD

軽量化が進む自動車部品で薄板の締結で反りやバリを軽減するカシメ用ボルト



アルミタイト

軽量化が進む自動車部品でアルミダイキャストが増加。アルミ特有のねじ込み時に生じやすい焼付きを防止するねじ。ワークの破損などの歩留まり問題・コスト問題を解消する。



CPグリップ

自動運転などの高度な制御装置が増加する中、締結時の粉による基板のショートを防ぐ



AKROSE HYBRID

コスト削減、機能性アップなどで求められる複数の金属が接合を原子レベルで実現



非日系企業

欧州への市場拡大に向けドイツのねじの展示会に出展
来場者 約11,000名
具体的案件獲得数：10件



ASSY 製品需要

自動車向けに、グループのプレス製品と締結部品を組み合わせた複合部品を販売開始

その他、複合部品の製品提案を強化。高付加価値製品として収益性向上を目指す。

業種拡大

自動車業界の生産調整が続く中、ケーエム精工、ピニング社の子会社化により、建築業界への販売を強化

前年同期比 (建築)

636 百万円増加
(20.8%増)



グロース ターゲット

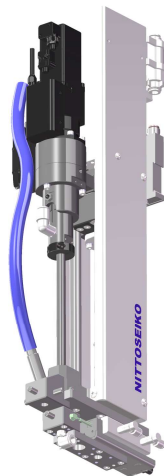
- CASE関連事業・・・主力である自動車業界の成長事業と関わり続ける
- 非日系企業・・・事業拡大にはグローバルな販売展開が不可欠
- 海外向け販売・・・既存拠点をハブとしながら欧州での受注拡大を目指す
- 事業領域拡大・・・環境負荷低減製品などを各種販売網を活かして拡大

CASE関連事業

CASE関連事業の推進に伴う電子化需要に応えるべく、コンタミ対策ねじ締め機で顧客の課題を解決に導く。

CASE関連売上 **780**百万円

売上高比率目標25.4%⇒実績**20.5%**



非日系企業

韓国向けを中心にEV関連の大型案件を受注
また、ファスナー事業と同様に欧州への拡販を展開中

前年同期比（韓国）

119百万円増加
(68.7%増)



海外向け販売

タイをハブとしたアジア全域への販売エリアの拡大に加え、基盤となるCEマーキング, RoHSなどへの取組みを推進。



また、特定国に焦点を当てた製品ラインアップの充実化を図っていく。

事業領域拡大

搭載するロボットのサイズダウンを実現し、消費電力の削減を通してCO₂の削減に貢献する軽量単軸ねじ締めユニットを開発。
今後も環境負荷低減に貢献する新製品の投入に注力。



重量30%Down

↓
CO₂削減に貢献

グロース ターゲット

環境関連事業・・・カーボンニュートラルビジネスへの参入が不可欠
半導体・食品市場・・・高付加価値流量計（質量・電磁・超音波）の拡販
海外地盤調査事業・・・高い国内シェアを武器にタイ市場での普及を促進
EV/LIB事業・・・ニーズが高まる成長分野へ検査装置や測定システムを提案

分析機器の欧州展開など化学・薬品業界を中心に増加 受注残前期比885百万円増加（76.1%増）

環境関連事業

マイクロバブル生成技術を活かした洗浄装置に続き、工業分野以外でその特性を生かしたヘアサロン専用シャワーシステムに応用展開。



海外地盤調査事業

日本国内で圧倒的シェアを誇る業界スタンダード製品の次なるステップとしてタイ市場を軸に東南アジアでの普及を目指す。「SDS試験結果を用いた液状化判定方法」が第三者審査機関に認められ、減災への活用に期待大。



半導体・食品市場

現場のニーズにきめ細かく対応するため、豊富なラインアップを誇る流量計。中でも高性能な質量/電磁/超音波式流量計が信頼性を保証。



半導体・食品関連売上**26**百万円
売上高比率目標0.2%⇒実績**1.0%**

EV/LIB事業

IoT化に対応する流量計のほか、検査装置にAI技術を搭載したモデルの開発に着手。成長分野である電池の電極など電子材料の評価に最適な自動粉体抵抗測定システムがあらゆる課題を解決。



GROWTH#2 環境戦略

グループ内の CO₂排出量削減

2030年まで

- ・再エネ電力への切替
- ・太陽光発電設置
- ・生産工程の見直し

2019年比
30%削減

2050年まで

- ・ファスナー製造の
エネルギー転換

カーボン
ニュートラル化

2020年～2023年2Qまで

- ソーラーパネルの設置（マレーシア）
- LED照明への移行
- 再エネ電力への切り替え
- 生産整備の稼働効率化対策
- その他節電対策



マレーシア現地法人に
ソーラーパネル設置
(2022年9月稼働)

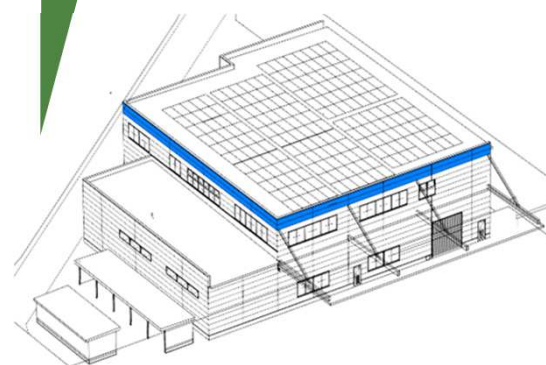
2023年度2Q実績

22.0%削減

(2019年実績÷2比)

～2030年まで取り組み計画

- 2023年11月ソーラーパネルの設置（産機工場）
（産機事業はほぼカーボンニュートラル化を実現）
- 2024年4月ソーラーパネルの設置・稼働
（タイ ファスナー工場）
- 2024年秋頃ソーラーパネルの設置・稼働
（綾部 ファスナー工場）
- 工場新設及びレイアウト変更による電力、運送費の削減



2030年度目標

30%削減

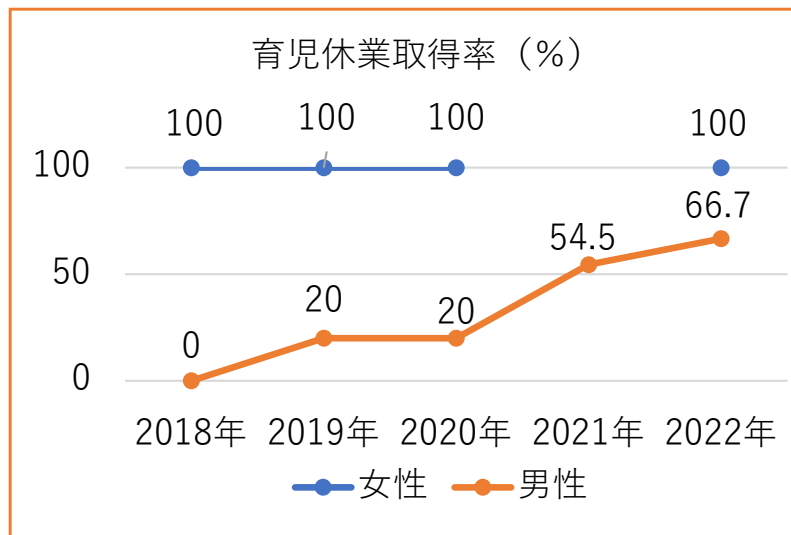
(2019年実績比)

GROWTH#3 人財戦略

働きやすい環境、働き続けられる環境づくり

プラチナくるみん

次世代育成支援対策推進法に基づく
取り組みで特に優良な「子育てサポート
企業」に対して厚生労働省が認定
2023年5月取得（京都府北部で初認定）



健康経営優良法人

「生活習慣病対策」、「メンタルヘルス」、「ワークライフバランス」など健康課題に即した取組や健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を経済産業省が顕彰する制度
グループ4社が認定



日東精工株式会社



日東公進株式会社



株式会社ファイン
株式会社ニッセイ

働き方改革

従業員のパフォーマンスを最大限活かすため、ワークライフバランスを特に推進

時間外労働時間

月平均 **4.5** 時間

（全国製造業平均14.4時間）

有給休暇取得率

75.6 %

（全国平均58.3%）

GROWTH#4 財務戦略

2022年度実績		2023年度見込み		2025年度目標	
ROIC	5.4%	ROIC	6.6%	ROIC	8%以上
ROE	5.9%	ROE	6.8%	ROE	9%以上

資本コストの削減と投資対効果を追求

CMSの導入

キャッシュマネジメントシステムを導入し、有利子負債の圧縮を取り組み中。今年度700百万円の削減を計画。また、グループ資金を資本コストを考慮して効果の高い投資に活かす。

限界利益の向上

労働生産性向上の取組みを展開。**VALUE UP 7000**と称し、部署ごとに対一人7,000円／月の限界利益向上策を起案、実施。成果を全社で見える化し、組織全体で収益向上の活動を推進中。

固定資産回転率の向上

固定資産回転率を向上するため収益向上を目的とする設備投資については、当社グループの**WACC 6.7%**以上の投資効果であるかのチェック体制を強化。また、固定資産の实地確認を実施中。遊休設備や有効性の低い設備を見極め、節税や資産の圧縮を図る。

3. 2023年12月期 業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

2023年12月期（連結）業績予想



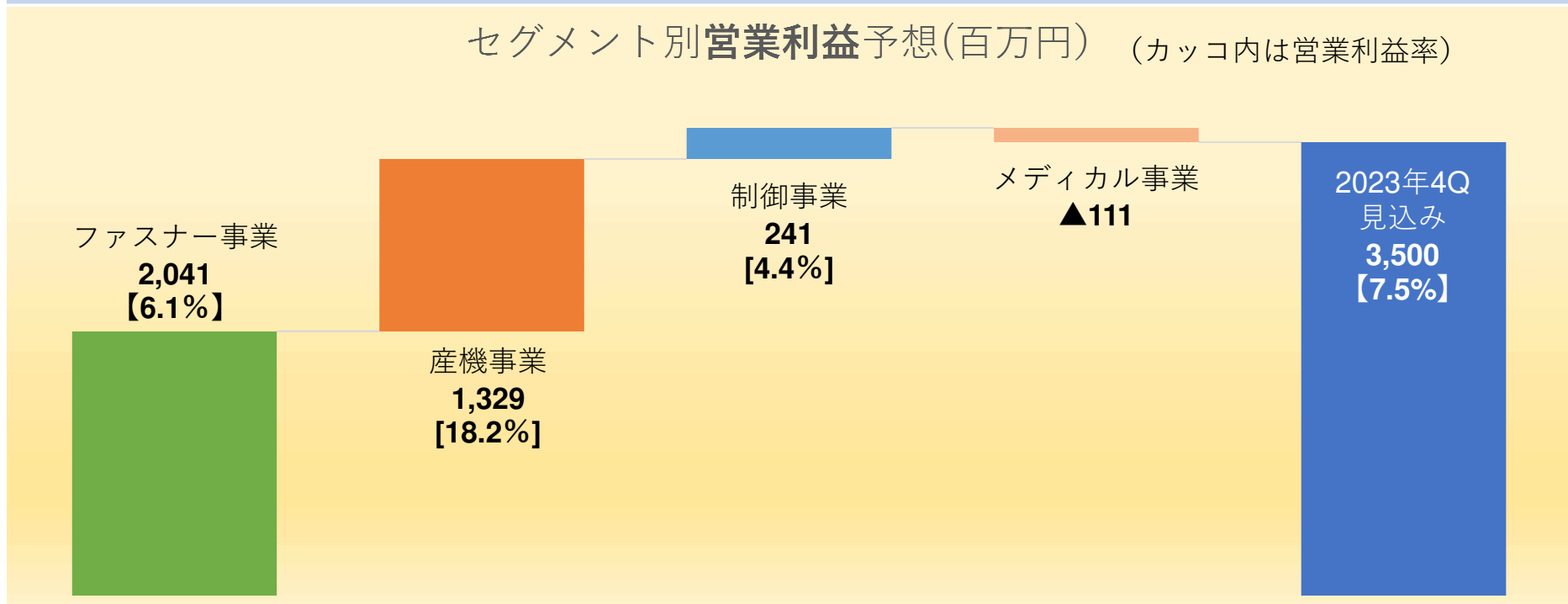
単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,021	100.0	46,500	100.0	2,478	5.6
営業利益	2,931	6.7	3,500	7.5	568	19.4
経常利益	3,235	7.3	3,700	8.0	464	14.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,828	4.2	2,200	4.7	371	20.3
一株当たり当期純利益（円）	49.50		59.54			

- 資材不足の影響は残るものの、自動車分野（EVやECU）を中心に需要の回復、また価格転嫁した受注品の出荷割合が高まることで、増収増益を見込む。
- ファスナー事業は、自動車分野では軽量化・電動化に貢献する各種ねじ製品に加え、子会社伸和精工の精密プレス品などの需要増、ウィズコロナならびに大阪万博関連などで第二の柱である住宅・建築分野向けねじやナットなどの伸長にも期待。
- 産機事業は、自動車業界の新機種投入、CASE関連など、大型生産設備案件の獲得や、電気・電子部品分野の需要回復、価格転嫁含めた利益創出の取組みにより下期挽回を目指す。
- 制御事業は、省人化や自動化のニーズにより、分析装置・検査機関連は堅調な推移を見込む。また、流量計は、造船の国際制度への移行による需要を見込む。
- メディカル事業は、販社との連携強化に努めるとともに、医療現場のニーズや市場を見据えた新製品の開発を進める。

セグメント別売上高予想(百万円)



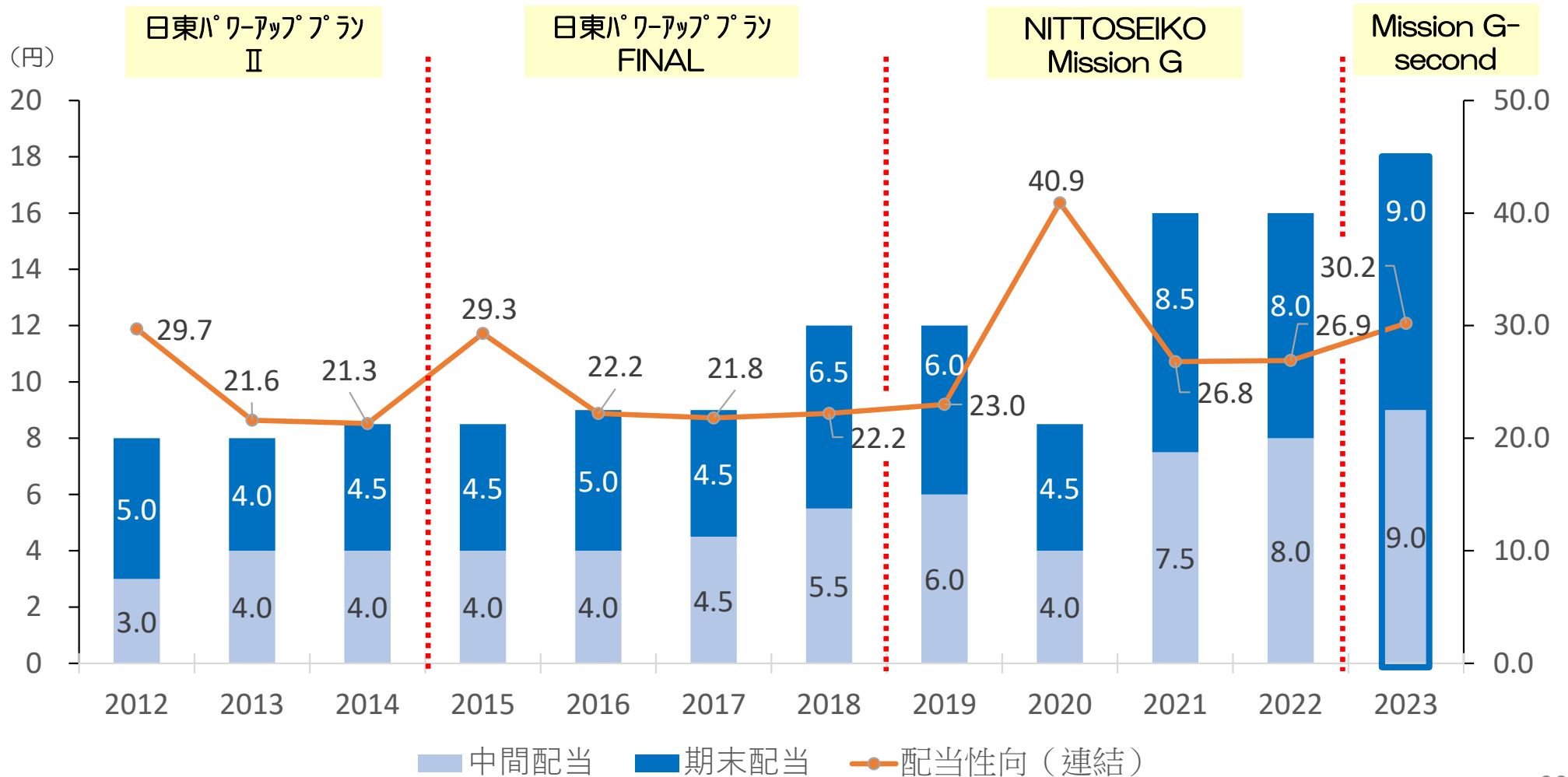
セグメント別営業利益予想(百万円) (カッコ内は営業利益率)



■利益配分に関する基本方針：

株主に対する利益還元 = 業績に見合った安定的な配当の継続

中間配当：9.0円 } 年間18.0円の配当を予定
 期末配当：9.0円



4. 経営の考え方

経営の考え方

1

経営理念を継承し、事業を深掘りして企業価値を高めていきます。

2

ステークホルダーから認められ、求められる存在となり、サステナブルな社会の実現につなげていきます。

3

モノづくりソリューショングループとして、お客様のマテリアリティを共有し、課題解決に努めます。

4

これらすべての実行のために強固な財務体質を確保します。